

■ 概況

10/22~10/28のNYMEX・WTI先物市場は、37.39~40.64ドルの範囲で推移した。

10月29日は、仏・独における新たな行動制限開始など新型コロナウイルスの感染再拡大への懸念によって、大幅続落した。また、メキシコ湾岸接近中のハリケーン「ゼータ」も勢力を弱め、石油施設への影響は限定的となったことも、値下がり要因となった。12月限終値は前日比1.22ドル安の36.17ドル。

週末30日は、欧米の感染再拡大に対する警戒感から3日続落した。加えて、10月のOPEC産油量が2459万b/d、前月比21万b/d増と9月に続き増産したとの報道も値下がり要因となった。12月限の終値は前日比0.38ドル安の35.79ドル。

週明け2日は、米大統領選挙を翌日に控え様子見ムードが強い中、安値拾いや持ち高調整の買戻しの動きがあり、4営業日ぶりに反発した。12月限終値は前週末比1.02ドル高の36.81ドル。

3日は、米国の株高につられた買いやドル安・ユーロ高による原油先物の割安感からの買いが入り、また、ノバク露エネルギー相が国営石油会社幹部と現行減産の来年第1四半期中の延長を協議したとの報道やナイジェリアが来年1月からの減産緩和の先送りを主張したとの報道もあり、続伸した。12月限の終値は前日比0.85ドル高の37.66ドル。

4日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で31日までの原油在庫は前週比800万バレル減と市場予想に反する減少となり、続伸した。開票作業中の米大統領選挙は大きな影響は与えていない模様。12月限の終値は前日比1.49ドル高の39.15ドル。

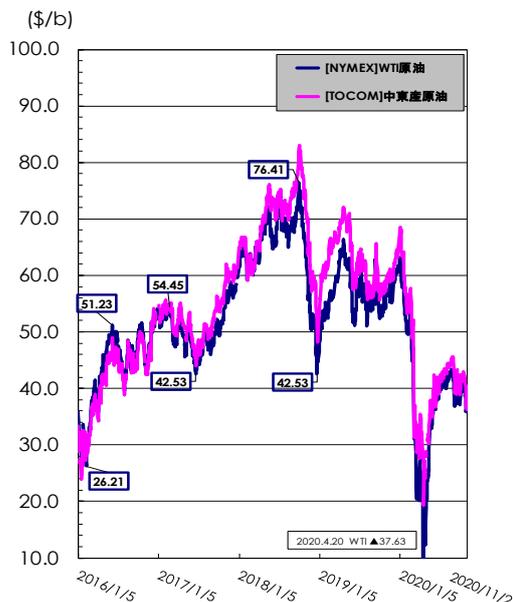
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は10月22日~28日の間39.80~41.40ドルの範囲で推移した。10月29日38.50ドル、30日36.80ドル、11月2日36.40ドル、4日40.30ドルと推移した。

為替は10月22日~28日の間104.45~104.81円の範囲で推移した。10月29日104.60円、30日104.80円、11月2日104.76円、4日104.55円で推移した。

財務省が10月29日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月上旬の原油輸入平均CIF価格は、30,247円/klで、前旬比563円安、ドル建て45.64ドルで前旬比0.64ドル安、為替レートは1ドル/105.37円。

そのような中で、11月2日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.4円の値下がり、軽油は同0.4円の値下がり、灯油は5円の値下がり（18%ベース）だった。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がりとなり、灯油は4週連続の値下がりだった。この週（11月第1週）の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比2.0円の引き下げとなった。

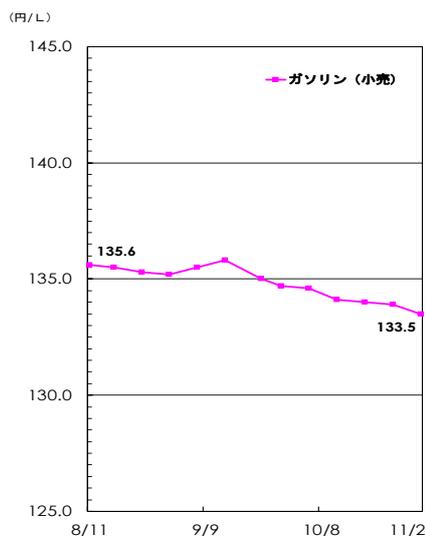
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/25 ~ 10/31	2,643 ▲107	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	68.7 ▲2.8	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/31	12,804 ▲22	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/2	36.26 ▼-4.44	▼-23.4
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/2	36.81 ▼-1.75	▼-19.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月上旬	45.64 ▼-0.64	▼-19.45
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	30,247 ▼-563	▼-13,887
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.37 ▲0.49	▲2.43
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/2	105.76 ▼-0.06	▲4.03



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/25 ~ 10/31	831 ▲ 55	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	744 ▼ -67	▲ -	
	輸出	"	10 ▲ 10	▼ -	
	在庫	10/31	1,911 ▲ 78	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/27 ~ 11/2	42.3 ▼ -0.8	▼ -15.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/27 ~ 11/2	37.3 ▼ -2.0	▼ -17.1
		(TOCOM/中部)	11/2	39.2 ▼ -1.6	▼ -16.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/2	133.5 ▼ -0.4	▼ -13.2	

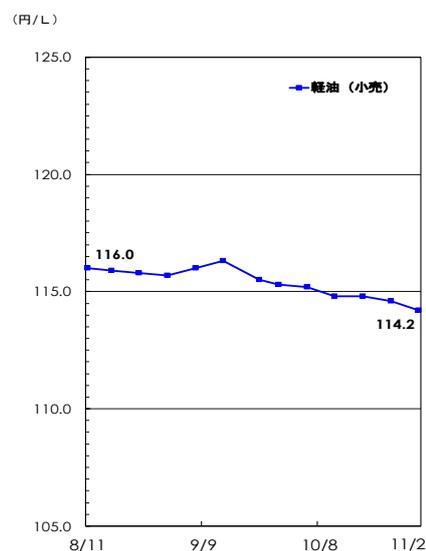
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

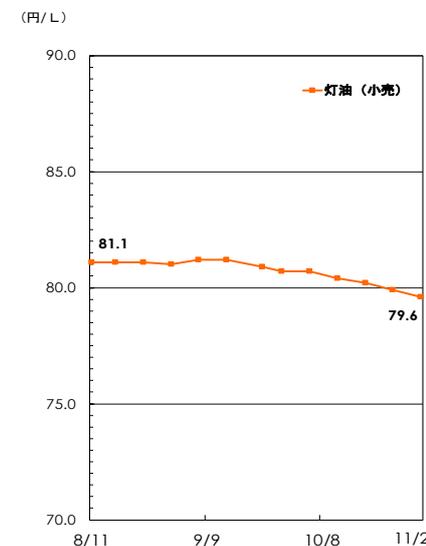
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/25 ~ 10/31	593 ▼ -29	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	505 ▼ -105	▼ -	
	輸出	"	53 ▲ 47	▼ -	
	在庫	10/31	1,616 ▲ 35	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/27 ~ 11/2	44.7 ▼ -0.9	▼ -16.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/27 ~ 11/2	45.2 ▼ -1.5	▼ -16.6
		(TOCOM/中部)	11/2	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/2	114.2 ▼ -0.4	▼ -13.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/25 ~ 10/31	257 ▲ 51	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	170 ▼ -55	▼ -	
	輸出	"	82 ▲ 37	▲ -	
	在庫	10/31	2,897 ▲ 5	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/27 ~ 11/2	44.5 ▼ -0.9	▼ -15.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/27 ~ 11/2	40.5 ▼ -1.8	▼ -17.5
		(TOCOM/中部)	11/2	41.5 ▼ -2.1	▼ -18.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/2	79.6 ▼ -0.3	▼ -12.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月4日のNYMEXのWTI先物原油は3日続伸した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で31日までの原油在庫は前週比800万バレル減と市場予想(同90万バレル増)に反する減少を示した。また、ロシアが来年1月以降の減産幅の拡大を検討中との報道、さらに、米大統領選挙は開票作業中であるが、議会選挙では民主党が上院の多数を取れず、石油会社への税制優遇の廃止を免れたとの観測も、上昇要因となった。12月限の終値は前日比1.49ドル高の39.15ドルと1週間ぶりの高値となった。1月限の終値は同1.48ドル高の39.47ドル。

EIAによると、11月2日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.1セント値下がりの1ガロン2.112ドル(58.9円/ℓ)、ディーゼルは同1.3セント値下がりの2.372ドル(66.2円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年10月25日～10月31日に休止したトッパ能力は62.0万バレル/日で、前週に対して6.2万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は264.3万klと、前週に比べ10.7万kl増加。前年に対しては61.2万klの減少。トッパ稼働率は68.7%と前週に対して2.8ポイントの増加、前年に対しては14.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.0%増、ジェット/9.3%減、灯油/24.6%増、軽油/4.7%減、A重油/5.9%増、C重油/0.6%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は5.3万kl(前週比4.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でA重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は74.4万kl(対前週8.2%減)と3週振りで減少した。ジェット5.7万kl(対前週28.5%減)、灯油17.0万kl(対前週24.5%減)、軽油50.5万kl(対前週17.3%減)、A重油20.5万kl(対前週4.2%増)、C重油18.9万kl(対前週5.2%減)。

(単位:千KL)

	今週 (10/25 ~ 10/31)	前週 (10/18 ~ 10/24)	前週比	
ガソリン	744	811	▼ -67	(-8%)
ジェット燃料	57	80	▼ -23	(-29%)
灯油	170	225	▼ -55	(-24%)
軽油	505	610	▼ -105	(-17%)
A重油	205	197	▲ 8	(4%)
C重油	189	199	▼ -10	(-5%)
合計	1,870	2,122	▼ -252	(-12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月31日時点の在庫は、全ての油種で積み増しとなった。前年に対してはC重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは191.1万kl、前週差7.8万kl増。前年に対しては39.2万kl多い。

灯油は289.7万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては8.0万kl多い。

軽油は161.6万kl、前週差3.5万kl増。前年に対しては25.6万kl多い。

A重油は77.9万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては4.3万kl多い。

C重油は178.6万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては20.2万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (10/31)	前週 (10/24)	前週比	
ガソリン	1,911	1,833	▲ 78	(4%)
ジェット燃料	869	835	▲ 34	(4%)
灯油	2,897	2,892	▲ 5	(0%)
軽油	1,616	1,581	▲ 35	(2%)
A重油	779	759	▲ 20	(3%)
C重油	1,786	1,773	▲ 13	(1%)
合計	9,858	9,673	▲ 185	(1.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月27日～11月2日の指標原油価格は前週比で大きく値下がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは大きく値下がりしたと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社2.0円の引き下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月27日～11月2日の製品スポット市況は、10月20日～26日平均と比べ、全油種・全取引で値下がりした。

直近(10/27～11/2)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(10/20～10/26)比で、ガソリンは0.8円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は0.9円の値下がりだった。直近(10/27～11/2)において、ガソリンは94～96円台で大きく値下がり、灯油は43～45円台で大きく値下がり、軽油は44～45円台で値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(10/27～11/2)に、前週比で、ガソリンは1.0円の値下がり、灯油は0.7円の値下がり、軽油は0.8円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(10/27～11/2)に、ガソリンは97～98円台で値下がり、灯油は41～43円台で大きく値下がり、軽油は45～47円台で値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.0円の値下がり、灯油は1.8円の値下がり、軽油も1.5円の値下がりだった。先物価格は、同期間(10/27～11/2)に、ガソリン89～92円台で大きく値下がり、灯油38～41円台で大きく値下がり、軽油44～46円台で値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (10/27～11/2)	前週 (10/20～10/26)	前週比
レギュラー	42.3	43.1	▼ -0.8
灯油	44.5	45.4	▼ -0.9
軽油	44.7	45.6	▼ -0.9

(TOCOM) (単位: 円/%)

(期近物/終値] [平均]	今週 (10/27～11/2)	前週 (10/20～10/26)	前週比
レギュラー	37.3	39.3	▼ -2.0
灯油	40.5	42.3	▼ -1.8
軽油	45.2	46.7	▼ -1.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/27～11/2実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.8	▼ -2.0	▼ -1.4
灯油	▼ -0.9	▼ -1.8	▼ -1.4
軽油	▼ -0.9	▼ -1.5	▼ -1.2
A重油	▼ -0.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月2日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円安の133.5円、軽油は同0.4円安の114.2円、灯油は18%ベースで同5円安の1,433円(1%ベースでは79.6円で同0.3円安)。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油は4週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは5県、横ばいは4府県、値下がりが38都道府県となった。全国最安値は126.4円の滋賀県(前週比0.8円安)、その次に安かったのは126.9円の徳島県(同0.1円安)、最高値は143.6円の大分県(同0.1円安)だった。最も値上がりしたのは、同0.4円高の三

重県(133.0円)、横ばいは京都府等4府県、最も値下がりしたのは、同2.0円安の沖縄県(139.8円)だった。

今週(10月27日～11月2日)は、指標原油価格は値下がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。次週(11月5日～11月11日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の引き下げとなった。次回調査時(11月9日)のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/2)	前週 (10/26)	前週比	直近高値
レギュラー	133.5	133.9	▼ -0.4	08/8/4 185.1
灯油	79.6	79.9	▼ -0.3	08/8/11 132.1
軽油	114.2	114.6	▼ -0.4	08/8/4 167.4

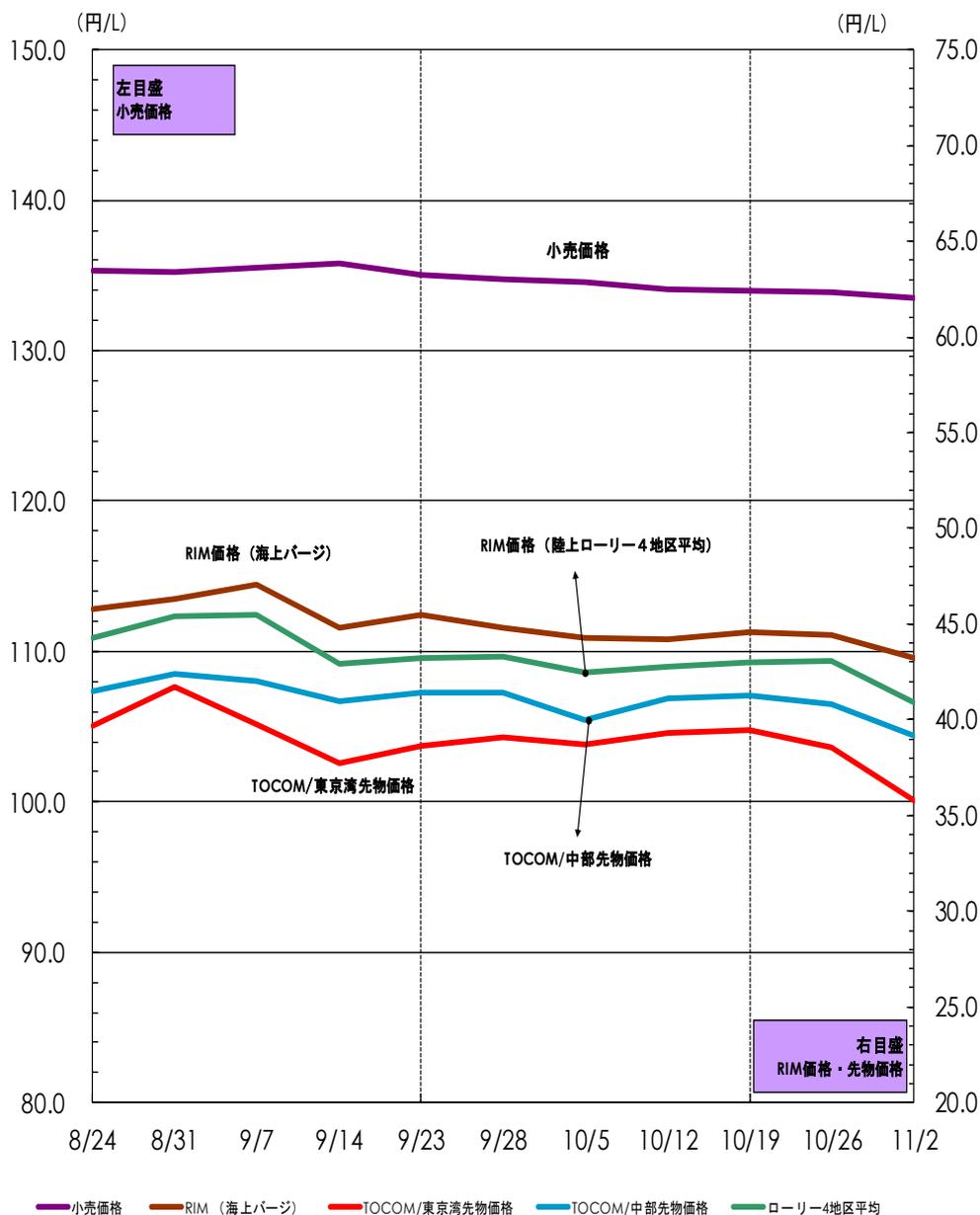
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/8/24 ~ 2020/11/2)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第19号)の公表は、11/13(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。